

## 第3回大府市男女共同参画審議会会議録

日時	令和8年2月6日(金) 午後3時30分から4時30分まで
場所	委員会室I
出席者	委員:笠松千尋、中庄とみえ、山本芳、西村剛志、小川友世、近藤亜美、磯部法子、嘉無木美穂子 助言者:岸智子 事務局:健康未来部長、女性活躍推進室長、女性活躍推進室主査
欠席者	なし
傍聴人	なし

(敬称略)

### 1 あいさつ(委員長)

今年度は『おおぶ男女共同参画プランVI』の中間見直しとして、第1回・第2回と審議を重ねてきた。本日は最終案の審議となる。社会全体では課題も多いが、本市においては女性活躍推進や中小企業での取組など、着実な前進が見られる。今後5年間に向けて、さらに前に進む計画となるよう、活発な意見交換をお願いしたい。

### 2 議題

#### (1)「おおぶ男女共同参画プランVI さんかく!おおぶ」中間見直し(案)について

以下の資料に基づき、事務局から主な変更点を説明。

【資料1】おおぶ男女共同参画プランVI (案)に対する変更点等について

- (1) 第2回審議会からの修正点について
- (2) パブリックコメントに対する市の考え方について

【資料2】おおぶ男女共同参画プランVI (最終案)

#### <発言要旨>

【資料1】(1)第2回審議会からの修正点について

(助言者意見)

基本目標2 施策の方向(4)の①人権教育、キャリア教育の充実について、教育現場で一般的に用いられている「キャリア教育」という用語は、職業的自立を指すが、本プランで用いているキャリア教育の意味に違いがある場合、受け手によって解釈が分かれるおそれがあるため、用語の整理や使い分けが必要ではないか。

(事務局説明)

本プランにおける「キャリア教育」については、具体的施策の内容①「将来、性別にとらわれることなく進路や職業選択でくるよう、多様なロールモデルを提示するなどして進路指導や職業観の育成を行う。」と位置付けている。この記載により、本プランで用いている「キャリア教育」の内容が分かるよう整理している。

(助言者意見)

「基本目標3 仕事と家庭の両立と職場における女性の活躍」の【現状と課題】の説明文(P29)にある、「賃金や職位の格差などの影響により、家庭内でどちらが仕事を続けるかを考える際…」という表現は、離職を前提としている印象を与える。そのため、「家庭内の役割分担を考える際」といった表現に修正するのはどうか。

(事務局説明)

表現の修正について、委員に諮ったところ、異議なく了承され、修正することとした。

(委員意見)

「基本目標4 生涯を通じた健康づくりと男女の性の理解、尊重」の施策の方向(10)の①の指標「石ヶ瀬会館での性に関する正しい知識に関する講座への参加者数」について、目標値を350人以上とした考え方を確認したい。

(事務局説明)

参加者数の目標値は、過去の実績(年間約40人)や、近年の石ヶ瀬会館における参加者の状況を踏まえ、計画期間全体を通じた累計として現実的な数値を設定したものである。内容が定着してきたため、近年は参加者数の伸びがやや鈍化している現状を反映している。

## 【(2)パブリックコメントに対する市の考え方について】

(委員意見)

DV相談について、男性への支援姿勢が読み取りにくいと、今後の検討姿勢や現状説明を補足した方がよい。現状は愛知県が設置する相談窓口との連携にとどまる印象があり、市として独自に男性が相談できる支援体制(相談窓口の設置等)を検討しているのかが伝わる表現にするとよい。

(事務局説明)

女性の相談件数に比べて男性DVの相談件数が少ないため、現時点では県の相談窓口の周知に努め、県と連携して対応していく。パブリックコメントの「市の考え方」の表記については検討する。

## 【本日の審議会の感想】

(委員感想)

事務局・関係者が知恵を絞って計画を前に進めていくことを期待する。

(委員意見)

施策の方向4「男女平等と自立を目指す学校教育」の文言について、「自立」の漢字表記を「自律」としてもよいのではないかと。

(事務局説明)

当該表現は、子どもたちが将来、自立した社会人になることを目指す教育を指しているため、「自立」としている。

(委員感想)

内容は非常に充実しているが、市民にどのように周知し、実際に活かしていくかが

最大の課題であると感じる。

(委員感想)

住民が自分事として理解しづらい場合が多い。概要版を作成するのであれば、市民や企業が「何をすればよいか」が分かるよう、行動の道筋を示す内容にするとよい。

(委員感想)

パブリックコメントから一定の市民関心は感じられる一方、日常生活の中では自分事として捉えにくい人も多いと思われる。周知の難しさは共通の課題であり、今後も理解を深めるための工夫が必要である。

(委員感想)

学校は女性が活躍しやすい職場であり、制度も比較的整っていると感じている。一方で、子育て世代の女性に対し、育児休業取得に難色を示すのは同性(女性)である場合もあり、世代間の考え方の違いについても意識を変えていく必要がある。

(委員感想)

時代の変化に対応しつつ、変えてはいけない部分も踏まえたバランスの取れた計画であると感じた。

(委員感想)

NPOとして石ヶ瀬会館の運営や講座を実施しているが、市民への周知の難しさを感じている。今後は、デジタル媒体など新たな情報発信手段も活用し、周知に努めていく必要がある。

### 3 その他

#### あなたとわたしのつどいについて

令和8年2月28日(土)13時から愛三文化会館で実施予定の「あなたとわたしのつどい」について、事務局から案内を行った。

#### (助言者まとめ)

本日の審議を通して、最も重要なキーワードは「周知」であると感じた。愛知県のワークライフバランスに関する冊子においても、周知の難しさが課題となっていると聞いている。本計画の冊子については、大学の授業など教育現場で活用することで、学生が行政の生きた情報に触れる機会となると考えられる。講座やセミナー等でも活用し、冊子をそのまま用いるだけでなく、内容を一部加工したり、図式を一般論として説明するなど、啓発・周知活動に幅広く活用することが望ましい。

また、女性管理職の育成については、個別企業内で行うことには限界があると感じている。企業規模や年齢構成により研修の実効性が左右されることも多く、近年は研修にかかる時間や費用が企業の収益に結びつきにくい状況も見られる。女性管理職教育についても、行政や教育機関と連携した、より広い枠組みでの人材育成が望ましいと考える。

以上は本審議会のまとめというより感想ではあるが、今後の取組の参考となれば幸

いである。

(健康未来部長あいさつ)

今年度は計画策定にあたり、事務局として悩み考えながら取り組んできたが、委員から評価をいただけたことを大変うれしく思う。本日いただいた意見を反映し、本計画が実効性を持ち、実際に活かされるものとなるよう取り組んでいく。引き続き、委員の皆様の御協力をお願いしたい。